

「BankART Life7」「黄金町バザール2024」 展覧会概要と参加作家を発表

第8回横浜トリエンナーレ「アートもりもり！」セット券発売中

第8回横浜トリエンナーレでは、横浜駅から山手地区におよぶ地域で活動する文化・芸術拠点が、「野草：いま、ここで生きる」の統一テーマのもと「アートもりもり！」と称して、多彩な展示やプログラムを展開します。

この中核となる活動拠点が主催する展覧会「BankART Life7」と「黄金町バザール2024」の概要と参加作家が決定しました。詳しくは別添プレス資料をご確認ください。

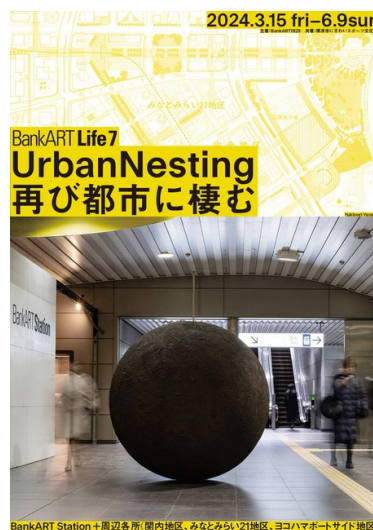
BankART Life7「UrbanNesting：再び都市に棲む」

2004年の活動開始から20年にわたり、都市と対峙しながらオルタナティブなアート・スペースとしての活動を続けてきたBankART。今回7回目となる「BankART Life」のテーマは「再び都市に棲む」。「BankART Station」を起点として、みなとみらい地区、関内地区、ポートサイド地区の3つのエリアの日常空間に作品を展開します。

会期：2024年3月15日(金)– 6月9日(日)

開場時間：11:00–19:00

会場：BankART Station 他周辺各所



主催：BankART1929（文化芸術創造発信拠点）

みなとみらい線新高島駅B1F「BankART Station」と、馬車道駅近く「BankART KAIKO」を起点とし、主催事業、コーディネート事業、スタジオ事業、コンテンツ事業、カフェパブ+ショップの運営などを通して、様々な創造的活動を行い、国内外に発信しています。

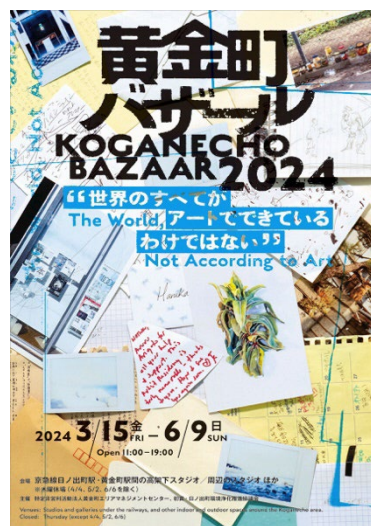
黄金町バザール2024—世界のすべてがアートでできているわけではない—

黄金町バザールはアートとコミュニティの関係、アジアとの交流をテーマに2008年より開催しているアートフェスティバルです。15回目を迎える本展では黄金町に関わりのあるアーティストをはじめ、アジアや横浜、他都市よりアーティストを招聘し、いくつかの章立てに分けて紹介します。また、黄金町のまちづくりの歴史を振り返り、その20年の軌跡を辿ります。

会期：2024年3月15日(金)– 6月9日(日)※会期中に一部展示変更あり

開場時間：11:00–19:00

会場：京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオ/ 周辺のスタジオほか



主催：NPO法人エリアマネジメントセンター

初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

初黄・日ノ出町地区において、各種のイベントの実施や地域との連携による「アートによるまちづくり」を進めています。

創造界限拠点について

横浜市では、横浜の最大の強みである「港を囲む独自の歴史や文化」を活用し、芸術や文化の持つ「創造性」を生かして、都市の新しい価値や魅力を生み出す都市づくりを「創造都市横浜」の施策に基づき進めています。この施策の一環として、都心臨海部を中心に「創造界限の形成」を進めており、歴史的建造物や倉庫、公共空間等を「創造界限拠点」として活用しています。BankART1929、初黄・日ノ出町地区、象の鼻テラス、旧第一銀行横浜支店、急な坂スタジオ、THE BAYSの6つの創造界限拠点があります。



参加作家（五十音順・屋外展示作家含む）

浅井裕介
アトリエ・ワン+東京工業大学塚本研究室
石内 都
磯崎道佳
ウー・チェンイー
牛島達治
大田黒衣美
岡崎乾二郎
甲斐貴大/studio arche
片岡純也+岩竹理恵
川俣 正
キム・ガウン
蔵 真墨
小林 椋
佐藤邦彦
さとうくみ子
志田塗装+酒井一吉
島袋道浩
下寺孝典（TAIYA）
白井美穂
SPACESPACE
鷹野隆大
高橋士郎
谷本真理
電子音響ピープル
野老朝雄
中谷ミチコ
西原 尚
蓮輪友子
婦木加奈子
blanClass+神村 恵
みかんぐみ
水木 壘
三田村光土里
光岡幸一
村田 真
矢内原充志
柳 幸典
ヤング荘
吉田山+西山 萌+木雨家具製作所
葭村太一
ワークステーション+武蔵野美術大学建築学科
高橋スタジオ
ほか

（42組／2024年2月7日現在）

詳しくはWEBサイトをご確認ください
<https://www.bankart1929.com/life7/>



参加作家（五十音順）

青木真莉子
安部泰輔
井上修志
岡田光生
小幡春生
かずさ
キャンディ・ファクトリー
さとうりさ
獅子の歯ブラシ
(稲村行正、船山哲郎、工藤結依)
地主麻衣子
柴田祐輔
瀧健太郎
尋木昭帆
谷口安利
程仁珮（チェン・レンペイ）
寺島大介
西松秀祐
ハングチリンタロウ
平山好哉
スティーブ・フロスト
本間純
馬延紅（マー・イェンホン）
宮内由梨
実 実生
山本篤
楊珪宋
和田昌宏

その他海外からの招聘予定6名

（33組+他協力／2024年2月7日現在）

詳しくはWEBサイトをご確認ください
<https://www.koganecho.net/koganecho-bazaar-2024/>

【セット券】情報 前売チケット発売中

18歳以下または高校生以下は、無料
横浜市民は、前売りチケットがお得です（一般料金から300円引き）

券種	対象	一般	横浜市民	学生 (19歳以上)
	「野草：いま、ここで生きてる」鑑賞券 「BankART Life7」「黄金町バザール2024」 のパスポートがセットになったチケット	3,300円 (前売：3,200円)	3,100円 (前売：3,000円)	2,000円

- ・セット券では、「BankART Life7」と「黄金町バザール2024」のいつでも何度でも入場できるパスポートと引き換えです。
- ・横浜市内にお住まいの方はお得な価格でチケットをご購入できます。チケット購入の際に居住を証明するものをご確認させていただきます。
- ・学生チケットをお持ちの方は、各会場で在学を証明する書類（学生証等）を提示してください。
- ・障がい者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料です。
- ・「BankART Life7」「黄金町バザール2024」の単体パスポートはそれぞれ1,000円です（一般、横浜市民同一価格/高校生以下無料）。

【購入方法】

オンライン：公式WEBサイトにアクセスしてください。 <https://www.yokohamatriennale.jp/>

会場窓口：BankART Station（みなとみらい線 新高島駅B1F）

黄金町バザールインフォメーション「高架下スタジオSite-Aギャラリー」（横浜市中区黄金町1-6先）

【お問い合わせ】 ハローダイヤル 050-5541-8600（9:00-20:00）

第8回横浜トリエンナーレの特徴

- ・アーティスト・ディレクターにリウ・ディン(劉鼎)、キャロル・インホワ・ルー(盧迎華)を迎えます。
- ・横浜駅から山手地区に及ぶエリアが舞台ー「野草」展+「アートもりもり!」が多彩な展示やプログラムを展開
- ・どなたでもアートに親しむことができる多数のプログラムをご用意します。

主催：横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

連携拠点：BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター、象の鼻テラス、急な坂スタジオ

公式WEBサイト：<https://www.yokohamatriennale.jp/>

第8回横浜トリエンナーレ

テーマ：「野草：いま、ここで生きてる」

コンセプト：リウ・ディン、キャロル・インホワ・ルー

「野草：いま、ここで生きてる」

国際展

企画：リウ・ディン
キャロル・インホワ・ルー
会場：横浜美術館ほか全5会場

「アートもりもり!」

市内の文化・芸術活動拠点による
展示やプログラム

主催・企画・会場：各活動拠点による

【プレスリリースお問い合わせ】 第8回横浜トリエンナーレ広報事務局（株式会社プラップジャパン：本郷、藤井、畑野）
E-MAIL：yokotoripr@prap.co.jp TEL：080-5887-1091（平日9:30~18:00）

【別添：プレス資料（プログラム詳細）に対するお問い合わせ】

BankART Life 7「UrbanNesting：再び都市に棲む」に関して

BankART1929 担当 細淵、高橋 E-MAIL：press@bankart1929.com TEL：045-663-2812

黄金町バザール2024-世界のすべてがアートでできているわけではない- に関して

NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター 山野桂 E-MAIL：info@koganecho.net TEL：045-261-5467

【横浜トリエンナーレ組織委員会お問い合わせ】 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局広報担当（石川、里見、頼政）

E-MAIL：press@yokohamatriennale.jp TEL：045-663-7232（平日10:00~18:00）

広報用画像貸出等プレス向けサイト：<https://www.yokohamatriennale.jp/press/>

報道関係各位

BankART1929では、第8回横浜トリエンナーレと連携した以下の展覧会を開催します。

アーバンネスティング

BankART Life7「UrbanNesting：再び都市に棲む」



BankART1929はこれまで横浜トリエンナーレ開催毎に、あわせて大規模な連携企画展「BankART Life」を開催し、3年に一度の総括とその後の指針を示してきました。BankART活動開始から20年のタイミングで開催する7回目の「BankART Life」のタイトルは「UrbanNesting：再び都市に棲む」です。

2004年、横浜市が推進する創造都市構想のリーディング事業として始まったBankART1929は、歴史的建造物や港湾倉庫などの遊休施設を文化芸術に活用することによって街ににぎわいをつくることをミッションに、館内外問わず様々な事業を展開してきました。またBankART自身も、都市の変容と呼応して何度もその棲家を移動せざるをえなくなり、引っ越しを繰り返し、様々な危機に直面しながらも活動継続して現在に至ります。「都市に棲む」というフレーズは、そんなBankARTのあり方としてたびたび使われてきましたが、この「棲む」という言葉には単に居住するという意味を超えた動物的な感覚が含まれています。野生の思考で都市を見つめ、自らの場所を発見し獲得していく喜び。それと並行して都市の中に潜むさまざまな問題や課題に対して真摯に対峙し、不確実さを引き受けながら、自由自在に形を変えてそれでも都市に棲み続けること。都市に棲む鳥たちや虫たちが、明るい日差しに戯れる日もあれば風雨の吹き荒れる中それぞれの巣で身を寄せ合いじっと耐える日もあるように、嵐の後の雨に洗い流された瑞々しい空気が、都市の見え方を大きく変えてみせてくれるように。

「都市」のような捉えどころのない大きなものについて考えるとき、個々人が捉えることのできる都市像は生物における環世界のように自分の立ち位置から独自の視点でみたものでしかなく、自分に見えるものは常に部分でしかありません。しかし、自分にしか見えない都市を地図にして誰かに渡したら、その人は同じ都市を違う都市のように巡ることができるかもしれません。様々な地図の無数の交換を繰り返す中で互いを更新し創造していった先には、どんな都市が立ち現れるでしょうか。

今回の会場となる「BankART Station」は、みなとみらい線「新高島駅」地下1階に広がる大空間であり、外部空間への結節点でもあります。この「BankART Station」を起点として、みなとみらい21地区、関内地区、ヨコハマポートサイド地区の3つのエリアの日常空間に作品を展開します。さらに多様なガイドによる「ツアー」によって、さまざまな視点から都市を再び訪れ直してみたいと思います。

統一テーマ「野草」について：今、成熟しつつある都市は管理され規制されると同時に、本当の意味で未知のものに出会う自由さを失いつつあるようにもみえます。フェンスに阻まれ路傍に咲く花を摘むことさえままならない、そんな都市でもなお私たちは、ここを棲み家とするものとして、自由の花を摘みに、あるいは何かを予感するために、あえて都市に身を置いてみようと思います。そこには今回のトリエンナーレがテーマとしている「野草」に通じるものがあるのではないかと考えています。

BankART Life7「UrbanNesting：再び都市に棲む」開催概要

会期：2024年3月15日(金) - 6月9日(日) 時間：11:00-19:00(屋外作品の観覧時間は設置場所に準ずる)

会場：BankART Station+周辺各所(関内地区、みなとみらい21地区、ヨコハマポートサイド地区)

料金：セット券(横浜トリエンナーレ+BankART Life7+黄金町バザール2024) 一般3,300円(3,200円) / 横浜市民3,100円(3,000円) / 学生2,000円 ()は前売料金 ※BankART Life7と黄金町バザール2024はパスポート制

BankART Life7 単体パスポート 1,000円

主催：BankART1929 共催：横浜市にぎわいスポーツ文化局

問い合わせ：BankART1929 info@bankart1929.com 045-663-2812

展覧会特設サイト：<https://www.bankart1929.com/life7/>

参加作家 (五十音順・屋外展示作家含む)

浅井裕介、アトリエ・ワン+東京工業大学塚本研究室、石内 都、磯崎道佳、ウー・チェンイー、牛島達治、大田黒衣美、岡崎乾二郎、甲斐貴大/studio arche、片岡純也+岩竹理恵、川俣 正、キム・ガウン、蔵 真墨、小林 椋、佐藤邦彦、さとうくみ子、志田塗装+酒井一吉、島袋道浩、下寺孝典 (TAIYA)、白井美穂、SPACESPACE、鷹野隆大、高橋士郎、谷本真理、電子音響ピープル、野老朝雄、中谷ミチコ、西原 尚、蓮輪友子、婦木加奈子、blanClass+神村 恵、みかんぐみ、水木 壘、三田村光土里、光岡幸一、村田 真、矢内原充志、柳 幸典、ヤング荘、吉田山+西山 萌+木雨家具製作所、葭村太一、ワークショップ+武蔵野美術大学建築学科高橋スタジオ、ほか

BankART Life7 「UrbanNesting : 再び都市に棲む」主な見どころ

20240207 ダイジェスト版

<p>■ BankART Station 直径2mの土玉、柳 幸典「グランド・トランスポジション」と川俣 正「Nest」が、みなとみらい線新高島駅の地下空間で皆様をお出迎え、展示室内では2021年に心身ともに大きな転回を経験した岡崎乾二郎による大作絵画と対面する。これまで20年のBankARTの歴史の中で大型個展を繰り広げた作家たちとともに、三田村光土里、矢内原充志、片岡純也+岩竹理恵、blanClass+神村 恵、光岡幸一、水木 壘、葭村太一、婦木加奈子、佐藤邦彦、さとうくみ子、電子音響ピープル、志田塗装+酒井一吉、吉田山+西山 萌+木雨家具製作所などの気鋭の作家たちが「UrbanNesting : 再び都市に棲む」というテーマのもと、それぞれの視点から都市空間に挑んだ作品を展開する。</p>	 <p>Courtesy of the artist and galerie frank elbaz Photo: Yulia S.</p>
<p>■ 関内地区 石内 都「絹の夢—silk threaded memories」@ 馬車道駅コンコース (共催：横浜トリエンナーレ組織委員会) 馬車道周辺はかつて横浜開港から近代の礎を築いた「生糸貿易」に携わる商館や検査所が置かれ、関東甲信越一円から集積された生糸が欧米へと輸出されていった。この絹に縁ある地に石内都「絹の夢」から紡がれた空間を立ち現わす。 その他、関内地区では、創造都市横浜20周年記念「横浜クリエイティブCOOP」@BankART KAIKO ショップエリアなどを展開する。</p>	 <p>©Ishuchi Miyako「絹の夢」]Courtesy of The Third Gallery Aya</p>
<p>■ みなとみらい地区 中谷ミチコ「すくう、すくう、すくう」@ ぶかり棧橋 (共催：パシフィコ横浜) 2021年に開催された「奥能登国際芸術祭」のため制作された作品を、横浜港に浮かぶ浮桟橋「ぶかり棧橋」にて再展示。石川県珠洲市飯田町の老若男女の両手(水を掬う仕草)をもとに制作された彫刻作品。展示と同時に購入者を募り、売上げは能登半島地震の被災地に返還される。 その他、みなとみらい線各駅やキング軸に隣接した建物などにも作品展示を予定。</p>	 <p>Photo: Hayato Wakabayashi</p>
<p>■ ヨコハマポートサイド地区 ※ 作品の観覧可能日時は店舗営業日に準じます みなとみらいに隣接したヨコハマポートサイド地区は「アート&デザインの街」というキャッチフレーズのもと1980年代に開発が進んだ。横浜駅きた東口に接続する商業施設横浜ベイクォーターから、オフィス街、高層住宅街、市場に隣接する横浜中央市場通り商店会まで、ポートサイドの日常空間の中にそれぞれの場所にあわせた作品を挿入。 光岡幸一はテープを用いて風景に文字を書くシリーズを「つま正」本社ビルで展開。その他、浅井裕介@横浜ベイクォーター、ヤング荘@宝町踏切付近など多彩な顔ぶれ。 (共催：ヨコハマポートサイド街づくり協議会)</p>	
<p>■ 多様な地図で巡るツアー 会期中、上記3エリアを中心に、都市を巡る様々なツアーを開催。 実施予定ツアー：村田真+飯島悦郎によるパブリックアートツアー、blanClass+神村恵による「身ひとつで生きる」ライブアートツアー、電子音響ピープルによる「音」で巡る都市ツアー、山野真悟による伊勢佐木町古本屋ツアー、ACYと関内外クリエイターズによる関内外オープンツアー、海洋市民大学による海からみた都市横浜ツアー、BankART スタッフによる屋外展示作品を巡るツアー、ヨコハマポートサイドの展示作品と横浜中央卸売市場を巡るツアー、アート関係者向けみなとみらい企業ツアー 等</p>	

※さらに詳しい内容のプレスリリース、最新のリリースは <https://www.bankart1929.com/life7/press> をご参照下さい

本展覧会に関するプレス関係のお問い合わせは下記にお願いします。
E-MAIL press@bankart1929.com TEL 045-663-2812 (担当：細淵、高橋)

黄金町バザール2024

—世界のすべてがアートでできているわけではない—

横浜トリエンナーレとの連携について

私は2021年に自ら『草枕プロジェクト』と呼ぶ事業を始めました。これは移動をテーマとして、さまざまな異なる場面を体験しながら、作品を見て回るという展覧会でした。

言うまでもなく、このタイトルは夏目漱石の有名な初期の作品から借りています。今回の横浜トリエンナーレのテーマが魯迅の『野草』から来ている、と聞いた時、私はそこに、何か大きな親和性以上のものを感じました。私は2022年、『草枕プロジェクトII』として、この試みの理念について説明する展示を行いました。そして今回の『黄金町バザール』は、私の中で『草枕プロジェクトIII』として位置付けられています。

このプロジェクトにはもうひとつの大きな目的がありました。それはコミュニティのつながりをより広い範囲で捉えて、新しいネットワークを作っていこうというものです。

私たちとともに、創造都市事業の主体として活動してきた組織、団体、およびいつかそれらの活動と連携していく可能性を持つ多様な事業体、そのような背景の中で、今回の私たちの共同は大変重要な意義を持っていると思います。その成果が現れることを期待しています。

黄金町バザールディレクター 山野真悟



【参考写真】草枕プロジェクトのサイン写真, 2020
撮影：笠木靖之

展示エリア

黄金町バザール2024は京浜急行線「日ノ出町駅」から「黄金町駅」間の初黄・日ノ出町地区で、高架下やその周辺に点在している施設など複数の建物を会場として展開されます。インフォメーションはエリア内に数カ所あり、来場者はいずれかのインフォメーションでセット券を黄金町バザール2024のパスポートに交換してから会場を巡ります。「黄金町バザール2024パスポート」を持っていれば会期中何度でもご鑑賞いただけます。



第1章 黄金町ゆかりのアーティスト Chapter 1 Artists Associated with Koganecho

黄金町エリアマネジメントセンターの活動が始まる前から、この地域には画家やアーティストとして活動している人たちがいました。今回その一部の方を紹介いたします。

おばたしゆんせい
小幡春生
たにくちやすとし
谷口安利

キャンディ・ファクトリー



撮影：笠木靖之

第2章 黄金町の現在 Chapter 2 Koganecho Today

黄金町エリアマネジメントセンターのAIRのアーティストの存在は黄金町という街の姿を大きく変えてきました。それはアーティストがコミュニティを形成していくことの可能性を大きく示しています。

岡田光生	寺島大介	宮内由梨
かずさ	平山好哉	実実生
瀧健太郎	スティーブ・フロスト	楊珪宋
チェン・レンベイ、 程仁珮	マー・イェンホン 馬延紅	

第3章 草枕プロジェクトIII 旅する思想 Chapter 3 Kusamakura Project III: Traveling Thoughts

私たちは、2021年以来、新たに二つのプロジェクトに取り組んでいます。それは黄金町の活動を広域化して、さまざまな潜在的機能と資源を持つ場所として捉え直すこと。そして、そこにこれまで交流のなかった地域のアーティストを集めて、新しいネットワークを生み出すこと。今回はそこに横浜のアーティストを組み入れることで、今後の私たちの活動の原型イメージを作ることを試みてみます。

井上修志	西松秀祐
獅子の歯ブラン (稲村行正、船山哲郎、工藤結依)	ハシグチリントロウ
たずのき あきほ 尋木昭帆	さとうりさ 本間純

第4章 アジアとの交流 Chapter 4 Exchange with Asia

今回は会期の途中からアジアのアーティストたちが参加します。また、中国、台湾、韓国の協力機関に対しては黄金町のアーティストを派遣する支援プログラムを計画しています。

招聘予定地域 | 中国、韓国、台湾、ベトナム、マレーシア、インドネシア

※4月上旬より公開制作をはじめ、4月下旬より展示開始を予定しています。

第5章 還ってきたOngoing Chapter 5 Ongoing Returns

黄金町バザールがはじまった頃から、Art Center Ongoingに関わるアーティストたちは数多く参加していました。彼らがキャリアを重ねて、また黄金町に還ってきます。

青木真莉子 山本篤
地主麻衣子 和田昌宏
柴田祐輔

第6章 安部泰輔の世界+ショップ Chapter 6 Taisuke Abe's World + Shop

2000年福岡デビュー、2005年横浜トリエンナーレデビュー、その後の活躍はすでに多くの人たちに知られるように、今回は2005年の横トリの活気をもう一度ということで、大きな展示スペースをつくりました。そして横トリグッズ+横浜+黄金町のアーティストのグッズ、美術書などを展示販売します。

安部泰輔



《毎日森》2005, 古着他,
山下ふ頭3号・4号上屋
撮影：久保貴史

第7章 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会 を語り継ぐ Chapter 7 Telling the Story of the Hatsuko- Hinode-cho Environmental Purification Promotion Council

協議会の取り組みについて、後世に語り継ぐためのドキュメンタリーコーナーです。ふたりのアーティストの成果として、発表します。



第8章 横浜市立大学鈴木研究室の黄金町 における活動史 Chapter 8 History of Yokohama City University Suzuki Laboratory's Activities in Koganecho

横浜市立大学の学生たちは黄金町エリアマネジメントセンター発足以前から活動していました。そして彼らの活動は地域の人たちに寄り添うようなプログラムを実施しています。